

## 指定管理者の管理運営に対する評価シート

所管課	大洲総合運動公園:土木建築部 公園・生活排水課 大分県立総合体育館:教育庁 体育保健課
評価対象期間	平成30年4月1日～平成31年3月31日

## 1 指定概要

施設概要	名称	大洲総合運動公園及び大分県立総合体育館	施設種別	レクリエーション・スポーツ
	所在地	大分市青葉町1番地		
	設置目的	(大洲総合運動公園) 工業地帯と市街地を遮断する緩衝緑地帯として、また県民の健康と体力の維持・増進を図り公共の福祉の増進に資するため、各種スポーツ施設を備えた運動公園として設置。 (大分県立総合体育館) 県民の体育及びスポーツの振興を図り、健康で文化的な生活の向上に寄与するため、総合体育施設を備えた体育館を設置。		
指定管理者	名称	ファビルス・プランニング大分共同事業体		
	代表者名	代表団体 株式会社ファビルス 代表取締役 野田 太		
	所在地	大分市青葉町1番地		
指定管理業務の内容	(大洲総合運動公園) ①公園施設の維持管理及び修繕に関する業務 ②公園の利用の受付及び案内に関する業務 ③公園の利用の許可に関する業務 ④公園の利用促進に関する業務 ⑤その他知事が特に必要と認めること (大分県立総合体育館) ①体育施設の維持管理及び修繕に関する業務 ②体育施設の利用の受付及び案内に関する業務 ③体育施設の利用の許可に関する業務 ④体育施設の利用の促進に関する業務 ⑤その他教育委員会が特に必要と認める業務			
料金制度	利用料金 ・ 使用料 ・ 該当なし			
指定期間	平成30年4月1日～令和2年3月31日(2年間)			

## 2 評価結果

評価項目及び評価のポイント	配点	評価レベル	得点
1 施設の設置目的の達成(有効性の向上)に関する取組み	40		24
(1)施設の設置目的の達成			
①計画に則って施設の管理運営(指定管理業務)が適切に行われたか。また、施設を最大限活用して、施設の設置目的に沿った成果を得られているか(目標を達成できたか)。			
②施設の利用者の増加や利便性を高めるための取組みがなされ、その効果があったか。	20	3	12
③複数の施設を一括して管理する場合、施設間の有機的な連携が図られ、その効果が得られているか。			
④施設の設置目的に応じた効果的な営業・広報活動がなされ、その効果があったか。			
【評価の理由】 (大洲総合運動公園・大分県立総合体育館) ○平成30年度の公園と体育館の合計利用者数は463,617人で、前年度の492,692人に対し29,075人減少(対比:94.10%)しているが、年間利用者目標463,500人は達成している。(達成率:100.0%)。 ○公園・体育館合同の利用者増加の取組として、有料施設の無料開放・スポーツ体験会・家族で楽しめるイベントの開催、自主事業(ベースボールスクール)や県外大学野球部の合宿等では、晴れた場合は外(グラウンド等)で、雨の場合は体育館で行うなど、緊密な連携をとった取組を行っている。 ○冬季など一般利用の少ない時期の利用促進手段として、県外や国外のスポーツ関係者にも利用してもらえるよう『運動部等の合宿や自主トレの誘致』を、県内外の旅行エージェントや地元のホテル・県国際スポーツ振興財団等に働きかけており、合宿や自主トレは継続的な利用が増えている。また、地元広報誌へのイベント情報の掲載やポスティング等による広報活動の結果、イベントやカルチャー教室等に多くの参加者がみられる。			

- 複数の施設の管理運営業務を円滑に行うために共同事業体の関係幹部で構成する『共同事業体連絡調整会議』を毎月1回開催し、年間利用者数や使用料収入の目標を常に念頭に置き、問題点や新規事業への対応など全般にわたり協議を行うことにより、情報の共有化を図っている。また、県との定例会も毎月1回開催され、前月の報告や問題解決に向けての協議等が行われている。

(大洲総合運動公園)

- 大洲総合運動公園の30年度の利用者は173,297人で、前年度188,645人に対し15,348人減少(対比:91.86%)し、年間利用者数目標188,500人を達成していない(達成率:91.93%)。減少の理由は、プロ野球オープン戦や日本女子ソフトボール1部リーグ等の大規模行事がなかったことに加え、夏の全国高校野球大分大会が、猛暑や全試合テレビ・ネット放映されるようになったことも重なり観客が大きく減少している。また、9月~3月の7ヶ月間、大分市への移管に伴う体育館の改修工事が行われ、その間、みんなの広場(通常は、大きな大会等で駐車場として利用されているが、利用できなかった。)に工事用プレハブ・車両・資材置き場が設けられたこと等により、公園の利用者にとっても、大変、利用しづらい年となったことも影響している。
- 継続している事業として、利用者の少ない冬季に「冬の公園イベント」の開催(H26~)、県外野球チームの合宿誘致(H27~)やコスプレイベントの受け入れ(H24~)を実施している。また、新たな事業として、ライトアップした夜桜を鑑賞していただく「桜並木で野点煎茶+ライトアップin大洲公園」の開催、自主事業では、「ソフトボール体験会」を開始し、利用者増加に向けて積極的に取り組んでいる。

(県立総合体育館)

- 県立総合体育館の30年度の利用者は290,320人で、前年度304,047人に対し13,727人減少(対比:95.49%)しているが、年間利用者数目標275,000人は達成している(達成率:105.57%)。減少の理由は、9月~3月の7ヶ月間、大分市への移管に伴う体育館の改修工事が大体育室を除く全施設(第1.2会議室・第1.2研修室・柔道場・剣道場・ロビー・各施設の更衣室やトイレ・外壁・屋根・天井・内壁など)で行われ、工事中の施設は使用停止になったこと等によるものである。
- 小体育室の半年間の改修中には、小体育室を控え室として利用するプロスポーツ等に対しては、代わりにフェンシング場や柔剣道場を利用してもらうなど細かな案内・取り組みを行っている。
- 冬・夏・春休み・連休等に子供を対象としたかけっこ・ボール投げ・なわとび・マット運動・跳び箱・鉄棒の教室、新たに、年配者向け卓球教室や若者に人気があり、オリンピック競技にもなったボルダリング教室、健康経営事業所(従業員の健康管理を企業の生産性や収益性の向上につながる経営的な視点から戦略的に実践する事業所)に認定されている企業へ、認定継続に必要な取組みを提案(回数券を利用したトレーニング習慣の促進・体育館で定期的体力測定を実施し運動習慣の見直し・健康イベントへの参加を促すため体育館が行うイベントのポスター掲示やチラシ配布・体育館を利用したレクリエーション等の促進など)し、支援・協力を行うなど様々な自主事業に取り組んでいる。また、ホームページでは会議室・研修室の空き状況の確認やカルチャー教室等の申込みが出来るようにするとともに、会議室・研修室の予約をメールでできるバナーを設け利便性の向上を図っている。

(2) 利用者の満足度

①利用者アンケート等の結果、施設利用者の満足が得られていると言えるか。	20	3	12
②利用者の意見を把握し、それらを反映させる取組みがなされたか。			
③利用者からの苦情に対する対応が十分に行われたか。			
④利用者への情報提供が十分になされたか。			
⑤その他サービスの質を維持・向上するための具体的な取組みがなされ、その効果があったか。			

【評価の理由】

(大洲総合運動公園)

- 通年の窓口での利用者アンケート調査に加え、テニス・弓道・野球等の各利用団体には同調査を個別にお願いしている。利用団体と通年調査を含めた202名の結果では、85.4%の利用者がまた利用したいと回答している。また、調査結果については集約しホームページで公表している。
- 意見に対し、できるものは速やかに対応し、抜本的に改善を要するものについては、県と対応を協議している。特に前年度まで弓道場(近的)利用者から苦情が多かった「多目的広場の土埃」については、指定管理者評価部会でも取り上げられたため、自主事業で同広場の表層安定剤散布試験を前年度の2月及び6ヶ月後の8月に実施し、効果がみられており、その後、一般管理業務として2月に散布をしているが、3月末まで散水を望む苦情は無い。
- 窓口に常設する『お客様の声BOX(ご意見箱)』や電話・メール等による苦情、意見については、直接会って聞き取るなどし、速やかに対応している。苦情・意見や対応方法については毎日のスタッフ会議で共有し周知を図っている。

(大分県立総合体育館)

- 一般利用者アンケート調査は窓口で期間を定め実施している。また、一般利用者の調査に加え、体育館で行われているカルチャー教室の内、卓球教室の参加者に対してもアンケート調査を実施し、利用環境の把握に努めている。348名の一般利用者アンケート調査結果では、プレートとダンベルを増やす要望等のほか、利用時間を長くしてほしい等の意見もみられる。48名の卓球教室の参加者に対してのアンケート調査結果では、定期的に利用している団体には抽選で利用を優先させてほしい・卓球ネットのひもを取り換えてほしいなどの要望がみられる。受付やトレーニングルームでのスタッフ対応や清潔さについては5点満点で4.25~4.35である。調査結果については集約しホームページで公表している。

- 「お客様の声BOX」を常設し、苦情・意見に対しては、直接電話等で聞き取りを行うとともに、対応の内容については体育館1階フロアに設置した掲示板でもお知らせしている。また、苦情・意見や対応方法については毎日のスタッフ会議で共有し周知を図っている。
- ホームページ・メディアを活用した広報やチラシの回覧・ポスティング等により、十分に情報提供している。特に、体育館の改修工事については、ホームページで、工事の日程・変更・利用可能な施設・利用できない施設等詳細な情報提供を行っている。
- ホームページでカルチャー教室の申込みや会議室・研修室の空き状況の確認ができると共に、会議室・研修室の予約をメールで受け付け、利便性を高めている。また、利用者の増加に伴い、室内用シューズ等レンタル用具の有料貸出や個人利用券の券売機を設置し、利用者の利便性を図っている。

2 効率性の向上等に関する取組み 30 / 22

(1) 経費の低減等			
①施設の管理運営(指定管理業務)に関し、経費を効率的に低減するための十分な取組みがなされ、その効果があったか。	20	4	16
②清掃、警備、設備の保守点検等の業務について再委託が行われた場合、それらが適切な水準で行われ、経費が最小限となるよう工夫がなされたか。			
③経費の効果的・効率的な執行がなされたか。			

**【評価の理由】**  
 (大洲総合運動公園・大分県立総合体育館)  
 ○ 電気料金については、電力会社を比較した上で、単価料金の安い電力会社との契約をおこなっており、水道料金については、主要施設(別大興産スタジアム等)の水洗トイレには節水コマを取り付け、下水道料金を免除するためグラウンドや花壇等の散水栓にはメータを取り付け、グラウンドの散水等には水道水と雨水の混合水を利用する等の取組を行うことで経費縮減を図っている。  
 ○ 主要施設(別大興産スタジアム等)の手洗蛇口を自動化し、トイレなどの照明のスイッチレス(人感センサー)化を進めており、感染症対策と併せ節水・節電対策を図っている。  
 ○ 自主事業の一環として、剪定木や落葉等を燃料や堆肥等として希望者に提供し、廃棄物処理経費の縮減を図っている。  
 ○ ビル総合マネジメントの(株)ファビルスが体育館の清掃、全体の警備・設備の保守・管理等を直営で行い経費を縮減している。機械と電気設備の管理は個別に担当を配置せず、両方の資格を有する人材を配置している。公園の清掃スタッフ等についてはシルバー人材センターと連携して地元住民の活用を図っているほか、近隣の会社・学校・各種団体等がボランティアで清掃を行っている。  
 ○ こうした取組の結果、光熱水費は前年に比べー399,849円、植栽管理費はー56,233円と経費削減につながっている。

(2) 収入の増加			
①収入を増加するための具体的な取組みがなされ、その効果があったか。	10	3	6

**【評価の理由】**  
 (大洲総合運動公園・大分県立総合体育館)  
 ○ 30年度の合計使用料収入(公園+体育館)は64,852,972円で、前年度68,543,878円に対し3,690,906円減額(対比:94.6%)しているが、年間使用料目標額60,000,000円は達成している(達成率108.1%)。  
 (大洲総合運動公園)  
 ○ 大洲総合運動公園の30年度の使用料収入は、15,887千円で、前年度17,310千円に対し1,423千円減額(対比:91.8%)した。(目標額:15,913千円。目標比:99.8%)減少の理由は、プロ野球オープン戦や日本女子ソフトボール1部リーグ等の大規模行事がなく、また、9月~3月の7ヶ月間、大分市への移管に伴う体育館の改修工事が行われ、その間、みんなの広場(通常は、大きな大会等で駐車場として利用されているが、利用できなかった。)に工事用プレハブ・車両・資材置き場が設けられたこと等により、公園の利用者にとっても、大変、利用しづらい年となったことも影響している。なお、軟式野球場や多目的広場では、保育園・幼稚園等の運動遠足や会社の運動会等での利用の促進・自主事業として、新たなソフトボール体験会や少年野球教室のクラス増へ向けての取組み等により使用料収入が増え、減少を抑えている。  
 (大分県立総合体育館)  
 ○ 県立総合体育館の使用料収入は48,966千円で、前年度51,234千円に対し2,268千円減額(対比:95.6%)した。(目標額:44,087千円。目標比:111.1%)減少の理由は、9月~3月の7ヶ月間、大分市への移管に伴う体育館の改修工事が大体育室を除く全施設(第1.2会議室・第1.2研修室・柔道場・剣道場・ロビー・各施設の更衣室やトイレ・外壁・屋根・天井・内壁など)で行われ、工事中の施設は使用停止になったこと等によるものである。しかし、小体育室の半年間の改修中には、小体育室を控え室として利用するプロスポーツ等に対しては、代わりにフェンシング場や柔剣道場を利用してもらうなど減少を抑えるための細かな案内・取組みを行っている。

3 公の施設にふさわしい適正な管理運営に関する取組み	30	24
<p>(1) 施設の管理運営(指定管理業務)の実施状況</p> <p>①施設の管理運営(指定管理業務)にあたる人員の配置が合理的であったか。</p> <p>②職員の資質・能力向上を図る取り組みがなされたか。</p> <p>③地域や関係団体等との連携や協働が図られたか。</p>	15	4 12
<p>【評価の理由】</p> <p>(大洲総合運動公園・大分県立総合体育館)</p> <p>○ ファビルス(ビル総合マネジメント)が中心となり、プランニング大分(総合広告代理)及びコナミスポーツクラブ(体育館管理の協力支援団体)と連携・協力し、最小限の人員で、毎月、共同事業体連絡調整会議を開催しながら情報を共有し、適正な管理運営を行っている。</p> <p>○ 国や県等外部主催の各種研修会や講習会に積極的に参加している。また、感染症対策や施設の安全管理等をテーマに共同事業体幹部による研修会を毎月開催し、スタッフへの周知を図っている。更に全スタッフに対し個人情報理解度テストを行うことで個人情報保護に対する意識の向上に努めていることに加え、利用者と直接接する体育館ではスタッフの接客・接遇のレベルアップを図るため品質研修などを毎月実施している。</p> <p>○ 地元自治会・各種団体・企業・学校等と連携して公園内の清掃、花壇づくり等に協力・参加してもらっている。また、高齢者就労支援や地元住民参加の一環としてシルバー人材センターと連携しており、低木の剪定・清掃・事務補助等のスタッフをシルバー人材センターと連携し派遣してもらっている。総合型地域スポーツクラブや団体等と連携・協力し、様々なスポーツの無料体験会やカルチャー教室等を開催するとともに、それらを支援するため、掲示板やホームページ等で活動状況を掲示している。その他、売り上げの一部で障がい者のスポーツ団体・アスリートを支援する「障がい者スポーツ振興支援型自販機」を2台、東京オリンピックへの選手強化及びオリンピック・ムーブメント等を支援し応援する「JOCオリンピック選手強化支援自販機」を1台設置している。更に、中学校と連携し、「青少年育成・社会教育事業」として中学生の職場体験学習等を行ってきている。イベント等では公民館や自治会等にポスター掲示や回覧をお願いし、多くの住民が参加している。</p>		
<p>(2) 平等利用、安全対策、危機管理体制など</p> <p>①関係法令(地方自治法、労働関係法令、通則条例、設置条例等)が遵守されているか。</p> <p>②施設の利用者の個人情報を保護するための対策が適切に実施されているか。</p> <p>③利用者が平等に利用できるよう配慮されていたか。</p> <p>④施設の管理運営(指定管理業務)に係る収支の内容に不適切な点はないか。</p> <p>⑤管理物件の修繕や日常の事故防止などの安全対策が適切に実施されていたか。</p> <p>⑥防犯や事故等の危機管理体制、防災士の配置など、防災に係る体制が適切であったか。</p> <p>⑦防災に関する研修・訓練が効果的に実施されていたか。</p> <p>⑧事故発生時や非常災害時の対応などが適切であったか。</p>	15	4 12
<p>【評価の理由】</p> <p>(大洲総合運動公園・大分県立総合体育館)</p> <p>○ 情報公開・文書取扱など諸規程を整備しながら、「県営体育施設の設置及び管理に関する条例」や「県都市公園条例」などの関係法令を遵守している。</p> <p>○ 個人情報・データの管理責任者等の体制やデータ保護・廃棄の手順等、情報漏洩防止のための個人情報保護規程を整備し、スタッフには個人情報理解度テストを実施している。また、「個人情報保護規程」の抜粋をホームページに掲載し周知している。</p> <p>○ 野球場と体育館は、主な大会日程を決めるための調整会議を開催している。一般利用は、毎月抽選会を行い、抽選会後は窓口受付、一部施設はホームページや電話で順次受け付けている。なお、各施設の年間行事予定表をホームページに掲載している。</p> <p>○ 安全管理マニュアルに基づいて、毎日巡回し、異常の早期発見と事故の未然防止に努めている。軽微な修繕は直ちに行っている。また、定期的にスタッフのAED講習を行っている。</p> <p>○ 早朝・夜の巡回警備と夜間・休日は機械警備を行っており、警備本部は車で5分の場所にある。緊急連絡網が確立しており、緊急時に速やかに対応できるよう県が発信する「県民安全・安心メール」に登録している。防火管理者が防災士の資格を取得している。</p> <p>○ 自衛消防組織があり、年2回消防訓練を行っている。消防訓練時に南海トラフ地震の津波を想定した防災・避難訓練も実施し、公園利用者や通行人にも可能な限り参加を呼びかけている。更に、利用者の多い体育館では、これらの訓練に加え、体育館だけの防災訓練を随時、実施している。津波避難場所に指定された硬式野球場の2階通路に災害時対応型自動販売機3台を設置しており、さらに災害時に、気象庁や各自治体から発信される情報を自動販売機に内蔵されたスピーカーから施設利用者に周知する『緊急速報対応自販機』を、園内に3台・体育館に1台の合計4台設置している。</p> <p>○ 感染症対策として、うがい・手洗い励行の掲示を行い、主要施設の入口には消毒用アルコールを置き、トイレの手洗い蛇口等の自動化や照明スイッチレス(人感センサー)化を進めている。</p>		

## 【選定委員の意見】

## 【総合評価】

合計得点(100点満点)	70	評価ランク(A~E)	C
--------------	----	------------	---

## 【評価の理由】

- (大洲総合運動公園)  
施設の設置目的の達成については、公園と体育館の合計利用者数は目標を達成しているが、公園の利用者数が目標に満たしていない。一方で、一般利用の少ない冬季には県外大学の合宿誘致やイベントの実施など、利用者増加に向けた取組がみられること、体育館と連携し、雨天時でもイベントを開催できるよう調整している部分が評価できるため、評価レベルを3とした。
- 利用者の満足度については、85.4パーセントがまた利用したいと回答しており、昨年度苦情のあった弓道場の土埃についても対策をとっている点は評価できる。一方で、弓道場の土埃については未だ改善の余地があることや、対策をとったことについて利用者に周知できていなかったことから、評価レベルを4とした。
- 経費の低減については、水道光熱費や人件費等で例年どおり削減の工夫を行っており、評価できるため評価レベルを4としている。収入面については、体育館の改修により施設が使用できないことを考慮し、自主事業の教室を増やしたり、代替施設を利用するなど工夫がみられるが、公園・体育館ともに使用料が減少しているため、評価レベルを3とした。
- 施設の管理運営については、様々な地域団体との公園内の清掃活動、シルバー人材センターの活用や中学校の職場体験学習の受入等、積極的に地域との協働をはかっていると判断し、評価レベルを4としている。
- (大分県立総合体育館)  
大分市への移管に向けての体育館の改修工事が9月から始まり、3月末までの約7か月間、大体育室を除く施設(第1.2会議室・第1.2研修室・柔道場・剣道場・ロビー・各施設の更衣室やトイレ・外壁・屋根・天井・内壁など)の改修が行われ、工事中の施設については使用ストップになると共に、この間、第2駐車場に隣接するみんなの広場には、工事参加業者占有のプレハブ事務所や車両置き場・資材置き場などが設けられるなど、体育館の利用者は元より公園の利用者にも大変利用しにくい年となり、更に、プロ野球や全日本女子ソフトボールリーグなど、大きな収入・利用人数となる行事もなかったが、工事日程・利用できる施設やできない施設等の適切な情報の提供、使用できない施設の代替施設の案内を行い、また、各種自主事業やパートナーシップ事業等を展開し、利便性向上を図る取組み等を通して、利用者減少を抑える努力がみられる。その結果、30年度は利用者数、使用料収入ともに目標値を達成している。

## 【今後の対応】

- (大洲総合運動公園)  
管理運営については、引き続き経費削減に取り組みつつ、安定した収入の獲得に向けてイベント誘致やサービスの改善を行う。
- H30年度の利用者減少要因として挙げられる硬式野球場の観客数減少について、指定管理者と協議する場を設け、対策を検討していく。
- H30年度に取り組んだ多目的広場の表層安定剤の散布についての効果の検証を引き続き行い、利用者の要望に対し適切に対応していく。
- (大分県立総合体育館)  
体育館では、2020年4月の大分市への移管に伴い、2018年度に引き続き、2019年度も10月から半年間、大体育室等の長寿命化工事を実施する。公園でも、施設の老朽化に伴い、テニスBコート(5面)の改修工事が5月から開始されており、9月までの5ヶ月間、使用停止の予定で、更に、Aコート(6面)の改修工事が2019年11月から翌年4月頃まで予定されている。2019年度は、前年度に引き続き、利用環境に大きな減少要因があることから、利用できる施設については、広報等を活用して、利用の一層の推進を図ることが必要である。また、2019年10月には、消費税の10%アップが予定されており、管理運営の経費の増加が見込まれるが、それに見合う利用料金の改正を行う必要がある。

## 【指定管理者評価部会の意見】

## 【評価】

- 1 施設の大規模改修中でありながらも利用者数の目標値を達成している点は評価できるが、利用者数に対してアンケートのサンプル数が少なく、利用者の意見を十分にくみ上げているとは言えない。

## 【意見】

- 1 体育館について、従来型のスポーツ利用にとどまらず、eスポーツなどの新たな分野での施設利用も検討してはどうか。
- 2 休日に加えて平日についても、体育館の稼働率を上げる取組をさらに進めてもらいたい。
- 3 ウォーキングに来る公園利用者と「おおいた歩得(あるとっく)」の連携を考えてみたらどうか。

## 【施設所管課に対する意見】

- 1 施設ごとにアンケート調査・分析を行い、利用者の意見が施設の改善につながる調査手法を指定管理者とともに検討する必要がある。